

## 山梨県U-12リーグQ&amp;A

項目分類	Q	A	ガイドライン該当事項
リーグ目的	「試合中はノーコーチング」というルールを取り入れたらどうか、 個の育成・課題の抽出を図ることを目的にしているリーグであり選手育成と指導者に成長にもつながるのではないか。	確かに、過度なコーチングは選手の判断を引き出さなければなりなく、選手の主体性の成長をも奪ってしまいますが、選手を励まし、もう少しがんばるための後押しが選手に成長を促す場合もあります。 ルールで縛るのではなく、各チームの指導者が率先してコーチングのあり方を考え、実践してはいかがでしょうか。	
資格・選手証	・選手証の提示、照会についてはどうするのか？	①当日の選手証確認は、会場入りしたときにおこなうようにします。 この時、登録選手である自覚を促すために（選手証を選手自身が手にする機会としても必要）、 ●整列時に選手がメンバー表を持参してチェックを受けるように工夫してはいかがでしょうか。 ②1試合目、2試合目のメンバー表は、（従来どおり）試合開始30分前までにメンバー表を確認します。	
	これまで、ユニホームというのはシャツ・パンツ・ストッキングの3点を指していましたが、 シャツだけ2着でパンツ・ストッキングについては1着でよいということになるのですか？	リーグ実施のガイドライン 「試合の実施」 4. 競技者の用具（基本的な規定はこれまでと変わらない） これまで通り異なる2色のユニホーム（シャツ・パンツ・ストッキング）を用意する。  また、③にあるようにビブス着用も場合によっては許容していることから、各実行委員会で確認し、全てが異なっていなくても主審の判断で許容してはいかがか。	
試合のルール	都合のつかなかった2チームだけで試合を行なう場合に第3者が審判に入るのか？	リーグの運営は、グループリーグ実行委員会において行うものであり、実行委員会の責任において試合を成立させるものです。 したがって、当事者のみで成立する試合は存在しないと考えます。	
試合のルール	マーカー等でラインとしてよいのか？	人工芝等のピッチを利用する場合などラインを引くことが不都合な場合、マーカー等で位置を明確にすることで可能であると考えます。 その場合、アークを描くことも省略できることにします。 当然、審判の判断に委ねられるとともに、選手への指導、指導者や保護者の理解と協力が不可欠であることは言うまでもありません。	
試合のルール	ピッチのサイズに幅があるが、推奨値に統一する必要があるのか。	U-12年代は、身体的な成長が顕著で一年の中でも変化が大きい時期であります。また、グループ全体で試合会場を確保、分担して自主的なリーグ運営を行ううえでは、小学校などを活用することも不可欠です。そうした様々な状況も考慮し、グループ内でピッチサイズを検討し、納得の下にリーグが運営できるよう幅を持たせています。 推奨サイズは、あくまでも運営委員会としての推奨サイズであり、全少大会県予選等においてはこのサイズを採用するものです。	1競技のフィールド ①大きさ
試合のルール	・交代方法は、交代ゾーンでの自由な交代となるのか。	基本はインプレー、アウトオブプレーに関わらず、交代ゾーンでの自由な後退が可能です。ただし、規定されるものがありますので「ガイドライン」を確認してください。	3競技者の数 ③交代の手続き
試合のルール	交代要員について、メンバー表に記入されていれば何人でも交代できるのか。	交替人数を制限はしませんが、メンバー表に記載されていることが前提です。現時点でのメンバー標記債上限は25人を予定しています。	4競技者の数 ②交代できる要員
試合のルール	・試合時間は実際にやってみて変えていけばよいのではないか。	2011年度は、20分ハーフ（インターバル5分）として実施します。 インターバル時間については、選手がベンチに戻っている時間（休憩時間）を5分間確保、計測するように主審が心がけます。	
審判	・1人審判に現実的に対応できるのだろうか？（3人制に慣れてしまったことにより運動量の少ない主審も多いが） → 長野県のように2人制を採用しても良いのでは	1人審判制により、審判と選手のそれぞれを成長させるものであって、審判のみならず、選手、指導者、保護者、それぞれにリスペクトし、協力して試合運営を円滑にする努力によりリーグが成立するものであると考えます。 初めての取り組みの開始である2011年度から、1人審判制にチャレンジしていくこととしています。	

審判	帯同する審判は1人でよいのか。	1人審判性と補助審判なので、原則1人でよいと思われます。ただし、各グループでの運営割り当て等によるものですから、各グループで協議してください。	
エントリー	・2つ目のエントリーチームは、6年生が含まれさえすればよいのか。	U-12リーグとしてのエントリーは、4種登録チームに2チーム目のエントリーを認めています。これは、6年生が全て試合に出場することができるようにするための配慮です。 したがって、6年生が含まれるチームでなければなりません、その人数についての規制はありません。	
エントリー	・エントリー料は	今後の理事会で検討して示します。	
エントリー	複数エントリーに関連して、チーム指導者の最低登録人数は？	4種登録における指導者の資格等はこれまで通りです。エントリーの際には、それぞれのチームごとにチーム責任者（チーム役員）と審判員が必要です。「ガイドライン」を確認してください。	15帯同する指導者、チーム役員 16指導者の資格
エントリー	複数エントリー時の指導者は、両チームで重複してもよいのか。審判員や代表者を兼務することは可能か。	参加に際しては、それぞれが別のチームとして扱われ、その所属するグループリーグで責任を果たすことが前提です。 したがって、それぞれのチーム責任者は異なる有資格者をもってチーム参加を行ってください。登録されたチーム責任者が、そのチームの管理者となります。 ただし、コーチの登録はこれまで通り、重複して行っていたり、ベンチ入り指導者、帯同審判員としてチームの運営に関わることは可能です。 試合当日の指導者を確保するために、エントリーチーム間での指導者の活用（兼務）をさせるためには、それぞれのチームに重複した登録を行ってください。 ベンチ入り指導者は、これまで通り3名とします。将来的にはベンチ入り指導者に有資格者の要件を条件とする考えがありますので、積極的に指導者資格を取得するようにしてください。	
エントリー	前期のみ、後期からの出場は可能か？	可能です。 ただし、後期のみ参加する場合は、Sリーグへの参加になります。	
運営	・実行委員会を組織するが、グループ運営の具体的方法はマニュアル等で示されるか。	グループリーグ実行委員会運営マニュアルを作成します。	
運営	・実行委員会での情報共有や結果の公開などをどうするのか。（広報委員会との関係）	広報委員会で検討し、実行委員会マニュアル等に示します。	
運営	・実行委員会には役員はどう関わるのか。（役員、事業運営部）	今後の理事会で検討して示します。	
運営	・リーグ戦各グループの運営費はどうなるのだろうか？	U-12リーグでは、前期、後期合わせ405試合を想定しており、4種委員会ですべての経費に限りがあることから、各グループで各チーム負担による運営費の確保が必要になることも考えられます。各グループへの運営委託料については理事会で検討されます。 グループリーグの運営の仕方によって経費に差異が出ることが予想されますので「グループ実行委員会運営マニュアル」にグループ負担の考え方についての具体的参考例を示します。	
運営	・3種においてはEメールを活用してグループ内の日程調整を行なっている。非常に有効であると思っているので、4種でもEメールを活用したほうが良いのではないのか。	グループリーグの当事者間による協議のうえ最良の方法を採用しましょう。 有効な方法としてEメールの活用も良いと思われます。ただし、すべての方に連絡徹底ができることが重要なので、各グループ内において連絡方法の手段を確認し、周知徹底して運営にあたるように取り組んでいくことが大切です。	
チーム	チーム責任者（監督者）の役割は何か。	チーム責任者（監督者）とは、当該チームを当該試合日に引率する責任者です。選手の体調、行動、並びにチーム関係者の行動等について管理、監督する人を必ず帯同させてください。 試合への関わりは、「試合に際し、チームを総括し、試合の運営に協力するとともに、グループリーグ実行委員会の指示によるリーグ運営に協力する。」ものとされています。	15帯同する指導者、チーム役員

参加資格	4種（男女）・5種（女子）ともに活動している女子選手の登録についておしえてください。 両方のチームで活動しそれぞれの大会にも参加を希望しています。	年次にWeb登録により4種登録し、選手証を得た後に4種登録を抹消してください。その後、5種に選手登録をしてください。 4種チームでの公式戦出場には抹消済の選手証を使用することが特例として認められています。 現状では、必ずしも女子選手の活動の場が確保できているとは言えないこと、同年代女子への思いやりサッカーファミリー拡大という主旨から特例として認めているものです。（4種理事会決定事項） また、5種登録された女子チームの4種主催大会出場も認められています。 ただし、同一大会においては4種・5種両チームの選手として出場することは出来ません。	